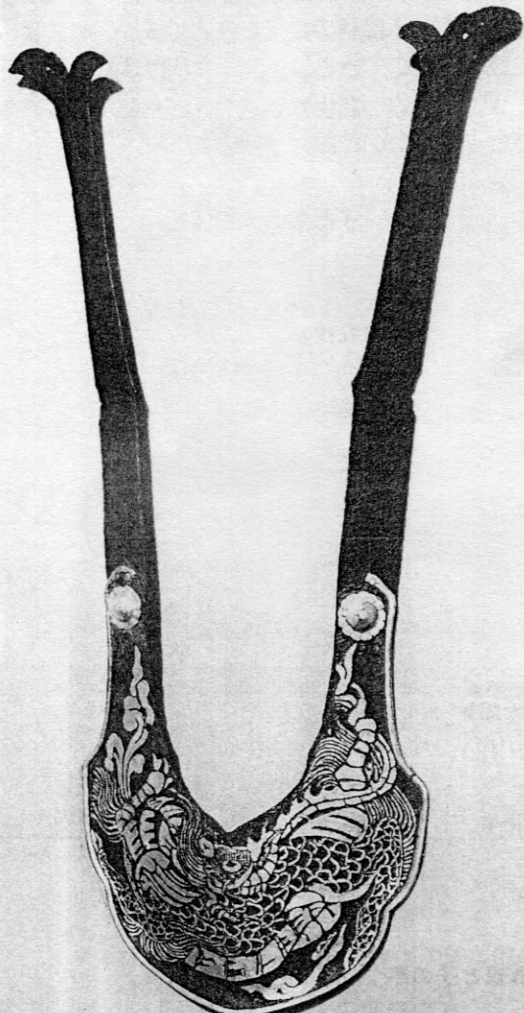


博物館だより

第10号



よみがえった

古代の美

鉄てつ鋤くわ形がた
(複製)

兜かぶと正面に付ける前飾で、現存する鋤形では日本で最も古い、貴重な完形品です。

寺伝では、坂上田村麻呂(758~811)が納めたとされています。

後世の装飾をこらした鋤形と比べて、簡素ですが、先端にイチヨウ形のくりを施し、細長く左右ともほとんど垂直に上方にのびた形は美しく、いかにも古式豊かです。

(大正3年国指定重要文化財)
時代 平安時代
所有者 若穂保科 清水寺

第18回 企画展

子どもの生活誌 —おもちゃと行事—

2月21日～3月27日

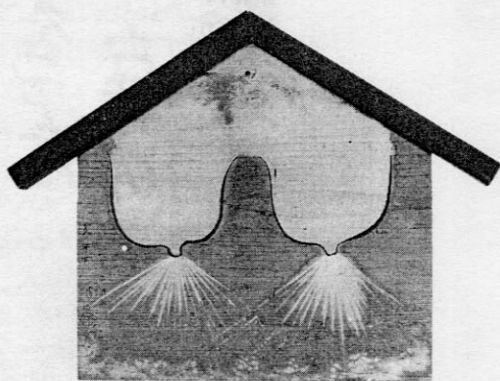
3月27日まで、昔から今に至る子どもの生活にスポットをあてた企画展を開催しています。

「七才までは神の子」と言われるように、子どもが誕生してから無事に成長するまでの間には、数多くの儀礼がもたらされています。そうした子どもたちの生活を、長野の事例を中心に展示しています。

この中には、土雛などの手作りのおもちゃから

ブリキ製の大量生産されたおもちゃまでを数多く展示したコーナーや、子どもたちが主体となつて行なう天神祭や十日夜の行事をジオラマにより再現したコーナーなどがあります。また、長野に古くから伝わる民話の数々を古老の語り口そのままに聞くことのできるコーナーも設けました。

大人とは違った世界をもつ子どもたちの生活の特性を示したいと思います。



《子どもの人生儀礼》

◀乳授かり

池口寺蔵（木曾郡大桑村）

奉納年不詳

乳首からほとばしる母乳をイラスト風に描いてある。

子どもの健やかな成長を願って奉納された、長野県各地の絵馬などを展示。

金太郎▶

大宮熱田神社蔵（南安曇郡梓川村）

昭和48年奉納

初宮参りに、子どもの無事成長を祈願したもの。



●講演会

3月13日(日)午後2時

「子どもの生活誌」

講師 倉石あつ子氏

(長野県史編纂委員)

博物館会議室・聴講無料

●親と子の手づくりおもちゃ講習会

3月20日(日)午後1時

講師 吉沢嘉寿氏

(吉沢おもちゃ学校主宰)

※申込み等詳細は博物館まで。



《子どもと民話》

“モウロ”に乗られたオオカミの話です。

馬を盗みに入ったオオカミは、「オオカミよりモウロの方がこわい」という、おばあさんの話を聞いてしまいます。

(民話『何が一番こわいかという話』より)

《あそびとおもちゃ》



▲押絵雛

宮澤憲衛氏コレクション

のんきなとうさん▶

田中太郎氏コレクション



▲手風琴

田中太郎氏コレクション



候可峠を越えた謙信本隊が、皆神山や舞鶴山のふもとを通り、多田越を経て妻女山に着陣したという説は、甲越信戦録という書物が始まりです。

多田越は武田方西条氏の本城前ですから、そこを通ることはできなかつたでしょう。それどころか、謙信の第一のねらいは海津城を攻め取ることですから、松代へ入れば海津城を囲んだも同然で

そのまま一気に攻め落とせば済みます。

実はこの数日後、信玄の大部隊が妻女山の眼前を横切って海津に入城しています。この時は千曲川をはさんでいますから互に手出しはできません。

両雄互にひけをとらぬ智将であることを強調したいために、謙信も敵前を横行したような話が作られたとしか言えません。

博物館行事のご案内

◆企画展

2/21～3/27 子どもの生活誌
—— おもちゃと行事 ——
4/17から 昭和62年度新収蔵資料展

◆プラネタリウムコンサート

3/26(土) 午後6時30分～8時
“星空と音楽”と題して、今回は映画音楽を特集します。

◆プラネタリウム

春の番組《宇宙を変えた人たち》 3月5日～5月29日
— 天動説から地動説へ —
太陽が中心にあり、そのまわりを水星・金星・地球・火星……と惑星が順番に回り、さらに地球

のまわりを月が回っている。こんな太陽系の姿はいつ頃から考えられていたのでしょうか。

宇宙の構造が初めて考え出されたのは3000年前のことになります。もっともその頃は地球が宇宙の中心で、太陽や他の惑星たちは地球のまわりを回るというもので、ギリシャの天文学者、プトレマイオスが天動説として完成させました。天動説は以後1500年もの長い間信じられていたのです。

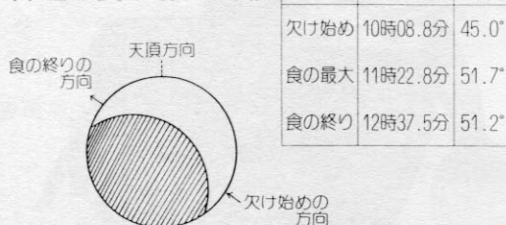
16世紀になると、ポーランドのコペルニクスは太陽が中心にあり、諸惑星は太陽のまわりを回るといふ地動説を発表しました。正に天地がひっくり返るような説です。詳しくは番組を御覧ください。春の星座も御紹介しています。

投 影 日 土・日曜・祝日
投影開始時刻 10:00・11:30・13:30・15:00

星・空・散・歩 — 日食情報 —

長野での様子

(下図は食の最大の頃)



3月18日に部分日食が見られます。昨年9月23日にも見られましたから、半年ぶりということになります。しかし、こんなに続けて見られるのはめずらしいことで、3月18日の次は2年後の1990年7月です。しかしこの時はほんの少ししか欠けません。実質的には1992年12月までおあずけといった感じです。なお、今回は小笠原沖で皆既日食になります。

博物館だより No.10 1988.2.21
編集・発行 長野市立博物館
〒381-22 長野市小島田町八幡原史跡公園内
☎ (0262)84-9011